

全国から72チーム、約200人の選手が白石に集結！



▲「盤上での会話を楽しみたい」と話す(左から)小川信夫さん、山崎實さん

囲碁
おがわ のぶ お 小川 信夫 さん
やまざき むのる 実 さん

「囲碁交流大会」に出場するのは小川信夫さんと山崎實さんの2人。信夫さんは昨年に続き2年連続、實さんは初出場となります。「囲碁歴は50年以上」という信夫さんは、職場の全国大会などでも優勝したほどの実力者。元々、将棋を

魅せられて

していた信夫さんは、「囲碁はもつとおもしろいぞ」と父親から言われたことがきっかけで囲碁を始めました。信夫さんは、「囲碁はいろいろな考え方ができる、打ち方ができる、40年前の棋譜(互いの手を順番に記入した記録をひっくり返して見ると、感じ方や考え方が当時と違う。また、スポーツはある程度体力が必要だが、囲碁はいろんな年代の人と打てるし、言葉が通じなくても世界中の人と打てる」と囲碁の魅力を話してくれました。

「囲碁は、盤上に自分の思いを描いていく過程が楽しい」と話す實さんは、囲碁歴約40年の大ベテラン。それでも、「囲碁はやればやるほどその奥深さに気が付かされる。惹き付ける何かがあるような気がする。いろいろな趣味を持ったが、囲碁だけはずっと続けているね」と笑顔で話してくれました。

地元白石での開催

「囲碁交流大会」はホワイトキューブを会場に行わ

な大会で上位に入るまで上達しました。「練習はきつけれど、楽しみであり張り合いにもなる。スタート台に立つと気持ちが変わる。選ばれた以上は、子どもたちに自分が生きてきた証を残したい」と意気込みを話してくれました。

宮城県水泳代表の男子選手の中で最年長となる清原正司さんは、25m自由形・25mバタフライ・100m混合メドレーリレー(自由形)に出場。定年退職後、スパシユランドしろいしに通うようになり、次第に水泳にのめり込んでいきました。ねんりんピックは今回が3度目。過去2度は惜しくもメダルに届かず悔しい思いをしたそうです。「水泳は楽しいけど、負けるのは嫌い。やはりメダルが欲しいです。今まではがむしゃらに自分流で泳いできましたが、もっと速くなるために体幹を鍛えたり、上手な人にアドバイスをもらったりしています」と、上達の秘訣を垣間見ることができました。

小田部勝さんは、25m背泳ぎ・25mバタフライ・100mフリーリレー・



白石市では「囲碁交流大会」を開催！

多彩なイベントと心からのおもてなしで、全国からのお客さまにたくさんの思い出を

●日時 10月14日(日)～15日(日) 9:30～16:00 ●場所 ホワイトキューブ

ホワイトキューブでのイベント内容などは、10月号でお知らせします。

☎ねんりんピック宮城・仙台2012白石市実行委員会事務局(長寿課内) ☎22-1361



選ばれた以上は、自分が生きてきた証を残したい！



▲大会での活躍を誓う(左から)小田部勝さん、山谷幸子さん、阿部廣榮さん、清原正司さん

「泳ぐこと」それは人生の楽しみ

「水泳交流大会」に出場するのは阿部廣榮さん、清原正司さん、小田部勝さん、山谷幸子さんの4人。個人種目・リレー種目でそれぞれ上位を目指します。

宮城県水泳代表の女子選手の中で最年長となる阿部廣榮さんは、25m自由形・25m背泳ぎ・100m混合メドレーリレー(背泳ぎ)に出場。水泳は65歳を過ぎてから始め、今ではいろいろな

な大会で上位に入るまで上達しました。「練習はきつけれど、楽しみであり張り合いにもなる。スタート台に立つと気持ちが変わる。選ばれた以上は、子どもたちに自分が生きてきた証を残したい」と意気込みを話してくれました。

宮城県水泳代表の男子選手の中で最年長となる清原正司さんは、25m自由形・25mバタフライ・100m混合メドレーリレー(自由形)に出場。定年退職後、スパシユランドしろいしに通うようになり、次第に水泳にのめり込んでいきました。ねんりんピックは今回が3度目。過去2度は惜しくもメダルに届かず悔しい思いをしたそうです。「水泳は楽しいけど、負けるのは嫌い。やはりメダルが欲しいです。今まではがむしゃらに自分流で泳いできましたが、もっと速くなるために体幹を鍛えたり、上手な人にアドバイスをもらったりしています」と、上達の秘訣を垣間見ることができました。

小田部勝さんは、25m背泳ぎ・25mバタフライ・100mフリーリレー・

100m混合メドレーリレー(バタフライ)に出場。7年前に白石に引っ越してきたときに、「メタボとボケ対策」として本格的に水泳を始めました。勝さんは「震災のときは全国から物心両面で支援を受けた。大会では競技はもちろんです。が、ホスト県として全国から集まる方々にお礼の気持ちを込めて交流したい」と、水泳を通じた交流を楽しみにしています。

山谷幸子さんは、25m自由形・25mバタフライ・100mフリーリレーに出場。健康のことを考え3年前に水泳を始め、8カ月後には大会に出場するまで上達しました。「水泳は個人でも練習できるし、努力すれば実になる。大会に出るとドキドキ感も味わえるし刺激になる。せっかくだいだいたチャンス。普段の泳ぎをしたい」と幸子さんは話してくれました。

廣榮さんと正司さん、勝さんは混合メドレーリレーで同じチームとしても出場。「水泳交流大会」は、角田市屋内温水プールを会場に行われます。